

伝統のファンタジー



水子石井組囃子

水谷公民館だより

編集 水谷公民館だより編集委員会

発行 富士見市立水谷公民館

富士見市水谷1-13-6 TEL049(251)1129・FAX049(255)9886

*水谷公民館だよりのホームページ <http://www.geocities.jp/kouminkandayori>

小さなお子さんからお年寄りまで、大好きな『お祭り』。

みんなにそのお祭りの楽しさを思い起こさせて、浮き立つような期待とよろこびが、聞く人の心に自然に湧き上がってきます。その旋律は、鎮守の森から流れてくる『祭囃子』の笛・太鼓です。

江戸時代から伝承され、ムラ(村)の生活に融和する神に幸を祈願し、平穏な日常と収穫に感謝をささげる。このお祭りに欠かせない主役でBGMでもある、身近な地域の「お囃子」を今月号は紹介します。

担当：久松・川上・前田 取材協力：水子石井組囃子



城の下組囃子



水子上組囃子

お囃子の起源

お囃子は、神霊を神社から祭場に移すときに演奏する「ハヤス」音楽から発展したとされますが、お祭りに情緒を添える祭礼囃子は、昔から不可欠のムードメーカーとなっています。

水谷の『祭りの囃子』

江戸時代に富士見市は、小江戸と呼ばれた川越と江戸を結ぶ交通路、「新河岸川舟運」の途中にあったので享年間(一七一一〜三六)に生まれた江戸葛西囃子、その後隆盛した神田囃子が、この文化も運ぶ道を通じて伝播されて来たと考えられています。

地域での現在の活動

市内では最近まで、六つの地区で、囃子が行われていたことが確認されていますが、現在私たちの地域では、次の囃子が継承されています。活動中です。

水子上組囃子

水子城の下組囃子

水子石井組囃子

中水子囃子

この地域の人々は、家内安全・五穀豊穰・悪疫退散の祈りをこめて、江戸時代から伝わる囃子を神社の祭礼に奉納しています。

現在では、町会や大応寺のまつり(※1月と4月)、市民まつりなどでもお囃子を披露しています。

*今年大応寺は4月のみ

囃子の構成

通常、囃子の演奏は、大太鼓(オオカン)一人、締



中水子組囃子



締め太鼓



証(チャンチキ)



笛(トンビ)

め太鼓(ツケ)二人、鉦(カネ、スリガネ、チャンチキ)一人、笛(トンビ)一人、拍子木(ヒョウシギ)一人の構成で演じられます。

締め太鼓二人のうち一方がウエまたはオス、ウワバチ、もう一方がシタまたはメス、シタバチといわれますが、この区別は、音の高低からきています。

また笛は、この中でただ一人旋律を担当し、通常七つ穴のものを使っています。これに踊り手が加わってお囃子の舞台が繰り広げられます。

水子石井組囃子

今回は、公民館から最も近い「水子石井組囃子」の会員の方から囃子組の由来、



お囃子の練習風景

演目など詳しい内容や伝承過程、伝統の維持や活動の様子など興味深いお話を伺いました。また、後日、宝性寺での練習風景を高橋会長さんの解説の下、見学させていただきました。

水子の石井ムラは四十七戸の小集落ですが、天明年間(1780年代)に凶作や悪疫から逃れるため、ムラの氏神として八雲神社を建立しました。以来毎年「4月15日、7月14日・15日、10月9日」に祭礼が行われています。石井組の囃子は、この奉納囃子として



八雲神社 演じられて、今に続いています。

曲目と踊り

曲目としては、仕丁目(舞)・屋台・仁羽(場)などが主に演じられています。

伝承のプロセス

囃子の伝承は、楽譜を使わないため、音を文字化した「口唱歌」を用いて習得します。「一字」とも言われる。新人は、「締め太鼓」から始めて「大太鼓」や「笛」の専門に分かれます。メンバーは、以前は農業従事者が多く、夜間に時間が取れましたが、今は練習時間の調整が難しくなっているそうです。



毎週日曜日と火曜日の2回、地域の菩薩寺である宝性寺で伝統のわざをみたく練習を続けています。課題はお囃子の中心となる笛方の育成と、ことです。現在のメンバーは、28名で、補充は不定期に不足気味な折に公募し増員されます。今後後継者の確保が課題ですが、最近中学校では「和楽を学ぶ」カリキュラムがとりいれられ、その中で「郷土の音楽―身近な地域のお囃子を知ろう」という体験授業もあり、底辺を拡げる期待も大きいというお話でした。

水谷公民館からのお知らせ

教育講演会

『子どもをうけとめる・とは』
〜3人のわが子との日々とバクの会〜の活動〜

◇日時 2月5日(土)

午後1時30分〜4時

◇会場 水谷公民館・多目的ホール

◇講師 滝谷美佐保氏・滝谷紘一氏
(バクの会主宰)

*不登校やひきこもりを考える子どもの居場所『バクの会』の活動と障害をお持ちの子さんを含めた3人の子どもたちとの闘い、家族の絆についてお話いただきます。
多くの方の参加お待ちしております(無料)。

◇主催 不登校・引きこもりを考える親の会
「まわりみち」水谷公民館 ☎(251) 1129

パソコン相談室

毎週水曜日(第5週を除く) 午後2時〜4時

◇場所 水谷公民館 講座室

◇主催 公民館PCサポートクラブ水谷公民館

*ノートパソコンをお持ちの方はご持参ください。

*お問合せは水谷公民館まで

わいわい楽器発表会

◇日時 2月13日(土) 午後12時30分〜3時

◇会場 水谷公民館 多目的ホール

◇第一部 「わいわい楽器発表会」

出演 *アルペジオ水谷の会(クラシックギター)

*ハーモニカクラブ山茶花(ハーモニカ)

*ウクレレ・フォートイン(ウクレレ)

*フレンズオブフォルテ(ピアノ)

◇第二部 各楽器の指導講師による
「思い出のメロディー」

◇主催 水谷公民館・わいわい楽器交流実行委員会

*どなたでもお気軽にお越しください(入場無料)

◇問合せ 水谷公民館 ☎(251) 1129

水谷子ども広場

◇日時 1/24(月) 2/14(月) 2/28(月)

午後2時30分〜夕焼け放送

◇場所 水谷公民館多目的ホール

◇土曜日道場

日時 1/22 2/26(第4土曜日)

午前9時30分〜11時30分

◇場所 水谷公民館 全館

*絵手紙・押し花・折り紙

*スポーツ吹き矢・ベージュマ

*スポーツ(卓球・バドミントン)

◇主催 富士見市地域子ども教室実行委員会

「ある日の」



メモから

仕事にもどこに行くにも雑記帳をもっていくのが私の癖。今日、柳瀬川まで歩いて富士見橋を渡り、柳瀬川を左へ、川を下って行く。桜の木の番号の125号から始まり、45号で終わる。桜の木も三つ又、四つ又五つ又となかなかなみごたえ。

柳瀬川と新河岸川が合流する手前、本町通りになる。志木駅に向かって200mくら

いので、素晴らしい道路元標を見つける。志木市本町2丁目バス停、市場坂上近く、明治時代の土蔵造りの家がけっこうある。その土蔵造りの原薬局(当時は原薬舗)の前に、明治四拾四年拾二月建立の埼玉県道路元標がある。

◎膝折村へ志里九町四拾壹間式尺。
◎大井村へ志里三拾四町拾壹里。
◎川越町へ四里三町三拾貳間志里。
◎大和田町へ三拾五町拾八間。
◎浦和町へ式里三町六間。
◎与野町へ式里六町志間志里。
◎左一 大和田町・清瀬村・東村山ヲ経テ府中、立川ニ至ル。道歩いてみると、いろいろな事に出会える。

◎大和田町へ三拾五町拾八間。
◎浦和町へ式里三町六間。
◎与野町へ式里六町志間志里。

打越町会 西川徳次

☆子育てサロン

親子フレンドパーク

*申込不要

親子で自由に過ごす時間です。

◇日時 1月12日(水)

2月2日(水)

午前10時30分〜正午

◇場所 水谷公民館 児童室

お母さん達のチャットルーム

*要申込

ちよつとの間、お子さんと離れ、子育て中のお母さん同士で、ゆつくりおしゃべりしませんか。

◇日時 1月19日(水) 午前10時30分〜正午

◇場所 水谷公民館 講座室

*お茶代として50円いただきます。

◇持ち物 着替え 紙おむつ おしぼり
ミルク以外の飲み物 (全て記名)

お母さんのステップアップ講座

*要申込

こどもの心肺蘇生法とAEDの講習会です。身近な公民館で受講しませんか。

◇日時 2月16日(水) 午前10時00分〜正午

◇会場 水谷公民館 講座室

◇対象 小さいお子さんを育てている方・興味のある方

◇持ち物 着替え 紙おむつ おしぼり
ミルク以外の飲み物 (全て記名)

◇問合せ 水谷公民館



神話

⑤

水宮神社の欄間の紹介

選んだので、八十神は彼を焼き殺してしまつた。

その昔、スサノオの子孫、大穴牟遲は因幡の八上比売に求婚に行く。八上比売は八十神の供をしていて、泣きわめく兔に出会つた。兔は海を渡つてみたくと鰐鮫を騙し、その上を渡つていたが、騙されたことに気付いた鰐鮫に皮を剥がされ苦しんでいた。

八十神は「海水で体を洗つた後、乾かせ」と嘘を教えたので、全身の皮が裂けてしまつた。オオナムチは「真水で洗い、ガマの花粉の上で寝転べば良くなる」と教えた。

すつかり良くなった兔は「ヤマガミヒメを妻にするのはあなたです」と予言した。兔の予言通り、姫は八十神の求婚を断り、オオナムチを



と云い、大國主といふ名前を与えた。オオクニニシはこの言葉通り、地上の支配者となり、国造りを始め、高天原から降りて来た天津神に大きな宮殿を建てさせた。これが「出雲大社」である。

《編集後記》

正月は雪の中、笛の音と共にやって来る獅子舞の後に付け回つたり、かるた、すごろく、めんこに興じた幼い日の風景。凧や羽子板、追羽根はほとんど手作り、縦割りの子ども集団が当たり前の時代。年かさの子が年下の子に教えながら、竹ひごに障子紙を貼つた凧、竹馬や竹とんぼ。くり抜いた板に、好きな絵を描いて色をつけた羽子板、追羽根は木蓮の実に鶏の羽をつけて作ります。お雛子の編集に携わりながら改めて失われつつある伝統芸能や伝承あそびとリわけ芸能には、継承していく難しさを感じました。漫画やTVゲームで遊んでいる現代の子たちに和楽のカリキュラムが組まれたことで未来に繋がったと思えました。(久松)